コートジボワール国月報（２０１６年２月）

|  |
| --- |
| 主な出来事【内政】●１５日、ベディエＰＤＣＩ党首は、ＲＤＲ－ＰＤＣＩ統一政党創設に関し、統一政党の名称は、ＲＨＤＰとなると述べ、名称を巡る論争に終止符を打った。【外政】●２３日、ブレーズ・コンパオレ前ブルキナファソ大統領がコートジボワール国籍を申請し、受理されていたことが判明した。●２８－２９日、　エルドアン・トルコ大統領がトルコのビジネスパーソン１５０名とともにコートジボワールを訪問した。【経済】●８日、米国大使は、世界食糧計画（ＷＦＰ）によるコートジボワールの農村部における学校給食プロジェクトに１８６億ＣＦＡフラン（約３７億円）を支援することを発表した。●１７日、コートジボワール電力会社（ＣＩＰＲＥＬ）の複合サイクル発電プラント・フェーズ４開始により、コートジボワールは国内電力生産目標である２０００メガワットを達成することとなった。 |

【内政】

・１５日、ベディエＰＤＣＩ党首は、ＲＤＲ－ＰＤＣＩ統一政党創設に関し、統一政党の名称は、ＲＨＤＰ（与党ウフエ派連合）となると述べ、名称を巡る論争に終止符を打った。ベディエ党首によれば、同宣言はウワタラ大統領との合意によるもの。（フラテルニテ・マタン紙）

・１９日、タイル軍事裁判所長は、２００２年のゲイ将軍、同夫人、及びその身辺警護隊の暗殺に関し、主犯格３名、セカ・ヤポ（バグボ前大統領夫人の元ボディーガード）等に対し終身刑、その他６名については懲役１０年を言い渡した。これら９名は、さらに賠償金として連帯責任によって８億５０００万ＣＦＡフラン（約１億７０００万円）の支払いを命じられた。（フラテルニテ・マタン紙）

【外政】

・４日、ウワタラ大統領は、エリゼ宮においてオランド仏大統領と会談した。両大統領は西アフリカにおけるテロの脅威についての懸念と警戒を表明したほか、オランド大統領はコートジボワールにおける開発プロセスへの仏の継続的な支援を約束した。（フラテルニテ・マタン紙）

・２３日、ブレーズ・コンパオレ前ブルキナファソ大統領がコートジボワール国籍を申請し、受理されていたことが判明した。本年１月１８日付官報に、コンパオレ前大統領が帰化したとする２０１４年１１月１７日付の大統領令が掲載されており、同大統領の弟のフランソワ・コンパオレも同様に帰化が認められている。（アビジャン発ＡＦＰ電）

・２８－２９日、　エルドアン・トルコ大統領がトルコのビジネスパーソン１５０名とともにコートジボワールを訪問した。ウワタラ大統領との会談では、アビジャン・サンペドロ（当館注：アビジャン西方約３００ｋｍ）間の高速道路建設にトルコが融資する可能性にも言及があった。両首脳は、防衛産業、健康、医療科学、都市計画、租税、租税回避、投資促進・保護、電気通信、郵便の９つの分野における協力協定に署名した。（フラテルニテ・マタン紙、アビジャン発ＡＦＰ電）

【経済】

・８日、マカリー駐コートジボワール米国大使は、コートジボワール西部・北部・北東部の農村部で学校給食のために１８６億ＣＦＡフラン（約３７億円）を支援することを発表した。世界食糧計画（ＷＦＰ）のプログラムにより、２０１６年から２０２０年までの期間で農村部に１８００万食のバランスのとれた食事を提供することで、特に女子の飢餓削減と識字初等教育状況改善を目的とする。（フラテルニテ・マタン紙）

・９日、米国ミレニアム・チャレンジ・コーポレーション（ＭＣＣ）のハイレベルの代表団がダンカン首相をはじめコートジボワール政府との会議を行った。ＭＣＣは昨年１２月にコートジボワールをコンパクト・プログラム援助適格国に認定しており、同代表団とコートジボワール側のチームがセクター別プログラム開発のために協力する。（フラテルニテ・マタン紙）

・１０日閣議によると、コートジボワールは今後天然ガスによる電力供給の不足が見込まれており、代わりに液化天然ガスの供給を確保するため、ＰＥＴＲＯＣＩホールディング、ＣＩエネルジー及び民間企業との合弁会社設立が認められた。（フラテルニテ・マタン紙）

・同１０日閣議によると、２０１６年のカシューナッツ購入価格が１キロあたり３５０ＣＦＡフラン（約７０円）に決定された。なお、総生産量は７０２，５１０トンと世界一であった。２０１５年は１キロあたり２７５ＣＦＡフラン（約５５円）であった。（フラテルニテ・マタン紙）

・１７日、スイスのＪＡＣＯＢＳ財団が活動を開始した。２０１５年から２０２０年までのカカオ生産地域における教育強化のために３００億ＣＦＡフラン（約６０億円）を支援する。人身売買・搾取・児童労働と戦う活動の調査国家委員会の会長であるウワタラ大統領夫人やダンカン首相が式典に出席。（フラテルニテ・マタン紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙、ル・パトリオット紙）

・同１７日、コートジボワール電力会社（ＣＩＰＲＥＬ）の複合サイクル発電プラント・フェーズ４が開始された。２２５０億ＣＦＡフラン（約４５０億円）で２３５メガワットの電力が生産され、ＣＩＰＲＥＬは５５６メガワット、コートジボワール全体では１９２４メガワットの生産量となる。ウワタラ大統領は、これにより設備容量に相当する生産目標である２０００メガワットが達成されると述べた。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙、ル・パトリオット紙）

【対日関係】

・３日、江口ＪＩＣＡアフリカ部長はダンカン首相をはじめ７閣僚を表敬し、ササンドラ市（コートジボワール南西部の海岸地区）商業ゾーン開発のための水産施設整備及び中央市場建設計画への１３６億ＣＦＡフラン（約２７億円）の無償資金協力を発表した。工事は５月に開始される。他には今後、２５０億ＣＦＡフラン（約５０億円）以上の支援によるトレイシュヴィル地区の日本・コートジボワール友好交差点建設も予定されている。なお、日本からは安倍首相が２０１４年にコートジボワールを訪問している他、国産米振興プロジェクトでは４２億ＣＦＡフラン（約８億円）を支援している。（フラテルニテ・マタン紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙）

・９日、川村大使はトゥーレ青年支援・青年雇用担当大臣を表敬し、西部における脆弱な人々の社会経済統合プロジェクトについて議論した。日本は所得創出活動を支援しており、大臣は支援の拡張を要請した。（フラテルニテ・マタン紙）

・２２日、川村大使はグラン・ラウの農業機械化訓練センター（ＣＦＭＡＧ）を訪問した。１９９０年に日本による１８０億ＣＦＡフラン（約３６億円）の支援を受け、２０１３年～２０１４年にコートジボワールにより６億３８００百万ＣＦＡフラン（約1億２７６０万円）で修復された。これまでに４７１９名が研修を受けている。（フラテルニテ・マタン紙）